

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和8年7月13日(月)

令和8年7月12日(日)付南日本新聞に「介護技術コンテスト」についての記事が掲載されましたので、紹介します。

南さつまで県高校介護技術コン

第13回鹿児島県高校生介護技術コンテストが7日、南さつま市のいにしへホールであった。福祉を学ぶ5校の代表15人が3人一组で出場し、最優秀賞に薩摩中央(さつま町)が選ばれた。8月21日に福岡県である九州大会に出場する。優秀賞は開陽(鹿児島市)だった。

7分の制限時間内で2人が実技し1人はサポート役に回った。課題は、左側にまひがあり車いすを使用する70代女性の介助。七夕飾りの短冊作りを支援し、トイレへ誘導した。安全面の配慮だけでなく、声かけなどのコミュニケーション技術も評価した。

薩摩中央のメンバーは3年の松元鈴音さん、上江川蒼昊(そら)さん、本溜心菜さん。松元さんは「仲間と意見を出し合い、よりよい介護につなげた。全国大会にも行きたい」と話した。

コンテストは県高校教育研究会福祉部

薩摩中央V九州大会へ

会の主催。会場には福祉車両や防災食などのブースも出され、約300人が来場した。生徒実行委員長の上村大和さん(加世田常潤3年)は「いろいろな介護の仕方や視点を学び、働く時に役立ててほしい」と話した。(有村美千代)



介護技術コンテストで競技する加世田常潤高校生
Ⅱ南さつま市のいにしへホール